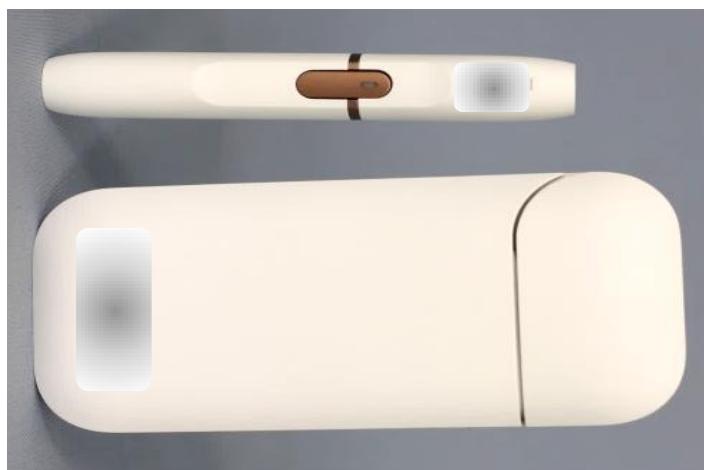


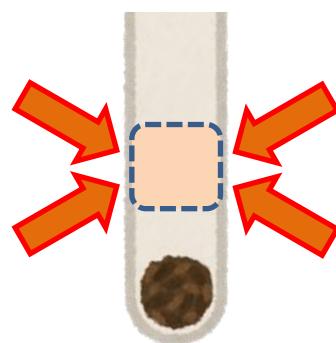
加熱式たばことは

- たばこ葉やたばこ葉を用いた加工品を燃焼させず、専用機器を用いて電気で加熱することで煙を発生させるもの。加熱の方法や温度などは製品ごとに異なる。
- 日本国内では、平成26年より順次発売が開始されている。
- 副流煙はほとんど発生しない。

現時点で販売されている加熱式たばこの専用機器（3種類）



- たばこを専用機器で直接加熱し喫煙する。
- 加熱温度は約350℃以下



- たばこを専用機器で直接加熱し喫煙する。
- 加熱温度は約240℃



- 専用液を加熱することで発生させた煙を、たばこ葉を含むカプセルを通過させて喫煙する。
- カプセル内の温度は約30℃

〔参考〕 紙巻きたばこの燃焼温度：700～900℃

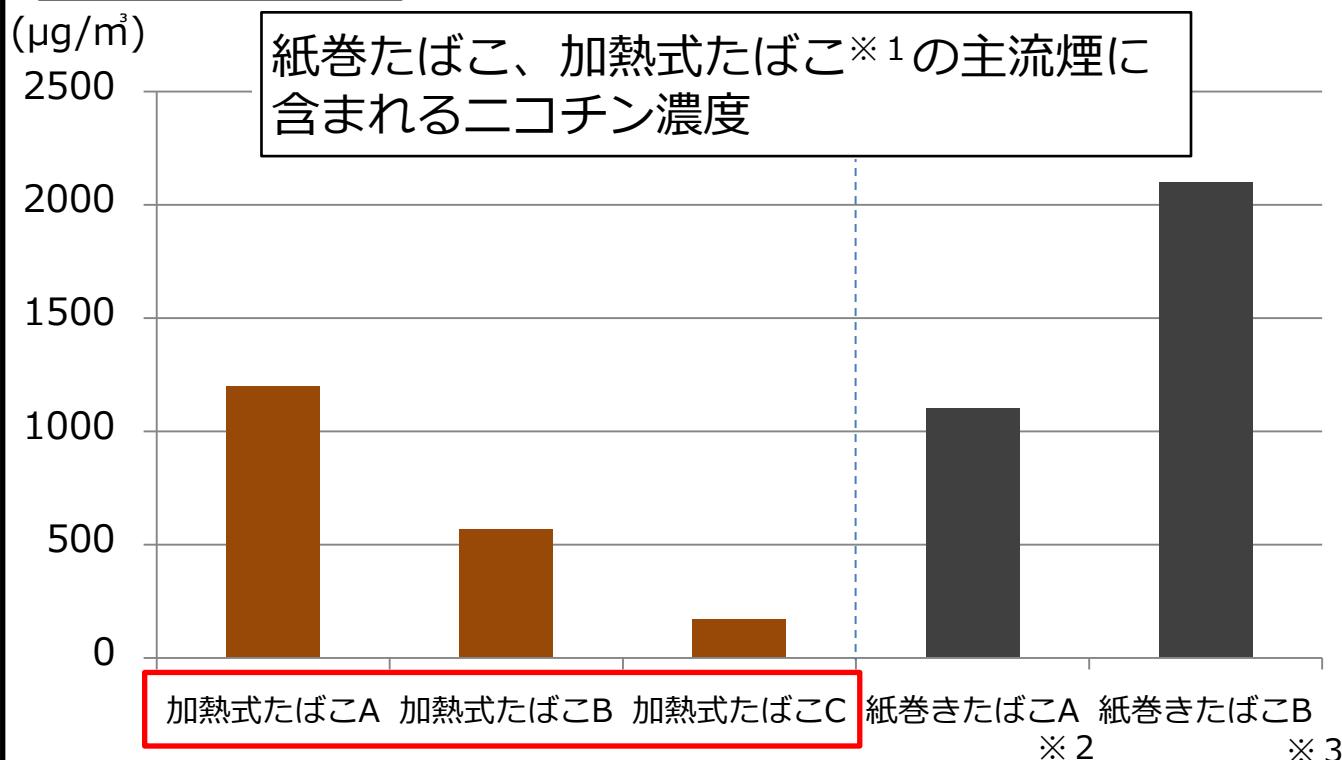
加熱式たばこにおける科学的知見

〔現時点までに得られた科学的知見〕

- 加熱式たばこの主流煙には、紙巻たばこと同程度のニコチンを含む製品もある。
- 加熱式たばこの主流煙に含まれる主要な発がん性物質*の含有量は、紙巻たばこに比べれば少ない。
- 加熱式たばこ喫煙時の室内におけるニコチン濃度は、紙巻たばこに比べれば低い。

*現時点で測定できていない化学物質もある

主流煙の成分

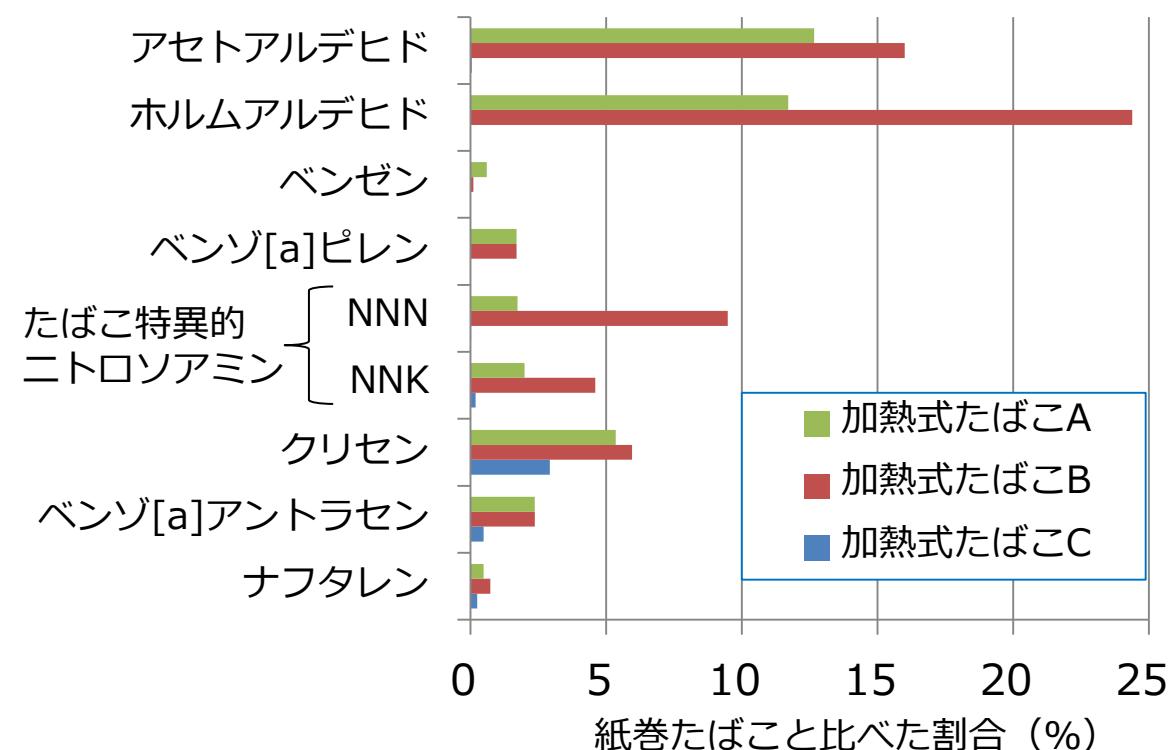


※¹ : 12回吸引 (紙巻たばこで概ね1本に相当する吸引回数)

※²・※³ : 試験研究用の紙巻たばこ参照品 (※² : 1R5F ※³ : 3R4F)

厚生労働科学研究費補助金厚生労働科学特別研究「非燃焼加熱式たばこにおける成分分析の手法の開発と国内外における使用実態や規制に関する研究」

加熱式たばこ主流煙中の発がん性物質の一例
(紙巻たばこ※³の主流煙に含まれる各成分量を100%としたときの割合)



喫煙時の室内におけるニコチン濃度

- 主流煙において紙巻たばこと同等程度含まれるものがある「ニコチン」を測定。
- 同一条件下 (換気のない狭い室内で喫煙した場合) で室内のニコチン濃度を測定したところ、紙巻きたばこ (1,000 ~ 2,420 μg/m³) に比べ、**加熱式たばこ (26 ~ 257 μg/m³)** では低かった。

国立がん研究センター委託事業費「たばこ情報収集・分析事業」による調査

〔現時点での評価〕

・加熱式たばこの主流煙に健康影響を与える有害物質が含まれていることは明らかであるが、販売されて間もないこともあり、現時点までに得られた科学的知見では、加熱式たばこの受動喫煙による将来の健康影響を予測することは困難。このため、今後も研究や調査を継続していくことが必要。